

火災について

出火の現場に居合わせたら、「通報」「初期消火」「避難」が大切です。出火直後なら「通報」と「初期消火」の優先順位が高くなりますが、そのために逃げ遅れては大変です。以下を参考に、あわてず冷静な判断を心がけましょう。

火災発生時の3原則

行動① 通報

大声で「火事だ!」と叫ぶ

- 大きな声で叫び、隣近所に知らせる。声が出ない場合は、非常ベルや音の出るものをたたく。
- どんなに小さな火事でも「119」番通報を。

行動② 初期消火

出火直後が勝負

- 火がまだ横に広がっているうちなら消火は可能。(炎が身長より低いを目安に)
- バケツの水や座ぶとんなど、身近なものを最大限に活用しましょう。

行動③ 避難

危険を感じたらすぐ避難

- 避難するときは燃えている部屋の窓やドアを閉めて空気を遮断。
- 避難する目安は、天井に火が燃え移ったとき。

「119」番などへの緊急通報

緊急通報する場合は、慌てずに落ち着いて内容を伝えましょう。


【通報内容の例】

- 通報の種類(火事、救急、事故等)
- 場所(住所、目標物)
- 現場の状況
- 通報者の氏名、住所、電話番号
- 逃げ遅れの有無

火元別初期消火方法

ストーブ

消火器がない場合は、水にぬらした毛布などを手前からすべらせるようにかぶせ、空気を遮断する。



電気機器

コンセントからプラグを抜くか、ブレーカーを切り、消火器で消火する。



コンロ(天ぷら油)

まずコンロの火を消す。水をかけるのは厳禁。消火器がない場合は、ぬらしたシーツやバスタオル(水が滴らないように軽く絞る)を手前からかぶせ、空気を遮断する。



消火器の操作法

- ① 安全ピンに指をかけ、上に引き抜く。
- ② ホースをはずして、火元に向ける。
- ③ レバーを強くにぎって、噴射する。



消火器の使い方

- ① 風上に回る。
- ② やや腰をおとして低く構える。
- ③ 熱や煙を避け、炎に近づき過ぎない。
- ④ 火を狙うのではなく、燃えている実体を狙ってホースはホウキを掃くようにする。

炎が天井に燃え移ったら、けっして自分で消しようと思わず、迷わずすぐに避難してください。

高層ビル火災における避難

上の階から出火した場合は、階段を使って下へ逃げます。下の階から出火した場合は、なるべく外階段から逃げます。下へ逃げられないときは、屋上の風上側で救助を待ちましょう。エレベーターは絶対使わないように。

本当に恐ろしいのは煙です!

煙は一酸化炭素などの有毒ガスを含んでいるため、吸い込むと中毒などにより命を落とす危険性があります。万が一、火災に巻き込まれた場合には、下記のポイントに気をつけながら避難してください。

- ぬらしたタオルやハンカチなどで、口と鼻をおおう。
- できるだけ姿勢を低くする。
- 階段では、はったまま後ろ向きに下りる。
- 視界が悪い時は壁づたいに避難する。



住宅用火災警報器の点検をしましょう

～正常に動作するか、定期的な点検が必要です～

- **点検方法**
ボタンを押すか、ひもを引いて正常に鳴るか確認して下さい。
- **音が鳴らない場合**
「電池切れ」か「機械本体の劣化」の可能性があります。
※機械本体は10年で劣化します。設置後10年経過したら交換をお勧めします。

